



独立行政法人日本学術振興会の取組 (第8期国際戦略委員会報告書等のフォローアップ)

日本学術振興会 国際統括本部
国際企画課 課長 中塚 淳子

学術研究（大学等の研究者の自由な発想に基づく人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野の研究）を総合的に支援する我が国唯一の資金配分機関（ファンディングエージェンシー）

＜研究者の自由な発想に基づく学術研究を支援するとともに、大学改革を支援＞

◆大学改革支援

- ・世界トップレベル研究拠点プログラム
- ・博士課程教育リーディングプログラム
- ・大学教育再生加速プログラム
- ・大学間連携共同教育推進事業
- ・地(知)の拠点大学による地方創生推進事業
- ・スーパーグローバル大学等事業
- ・大学の世界展開力強化事業

日本学術振興会(JSPS)

公平・公正で透明性の高い
審査・評価の実施

学術システム研究センター

プログラムディレクター 6人
プログラムオフィサー 128人(H30.4)

選考

審査委員 約10,000人

●研究者支援 ()内はH30予算額

➤研究助成 (2,286億円)

- ・科学研究費助成事業

* 平成30年度助成額は、対前年度2億円の増。

➤研究者養成 (179億円)

- ・特別研究員(H30年度新規採用)2,207人
- ・海外特別研究員(H30年度新規採用)173人

➤国際交流 (62億円)

- ・海外学術振興機関との協力による国際共同研究等
- ・若手研鑽シンポジウム(HOPEミーティング等)
- ・外国人研究者招へい・ネットワーク強化
(外国人特別研究員等)
- ・海外研究連絡センター(9ヶ国10カ所)

研究者の自由な発想

人文学・社会科学から自然科学まで全ての学問分野

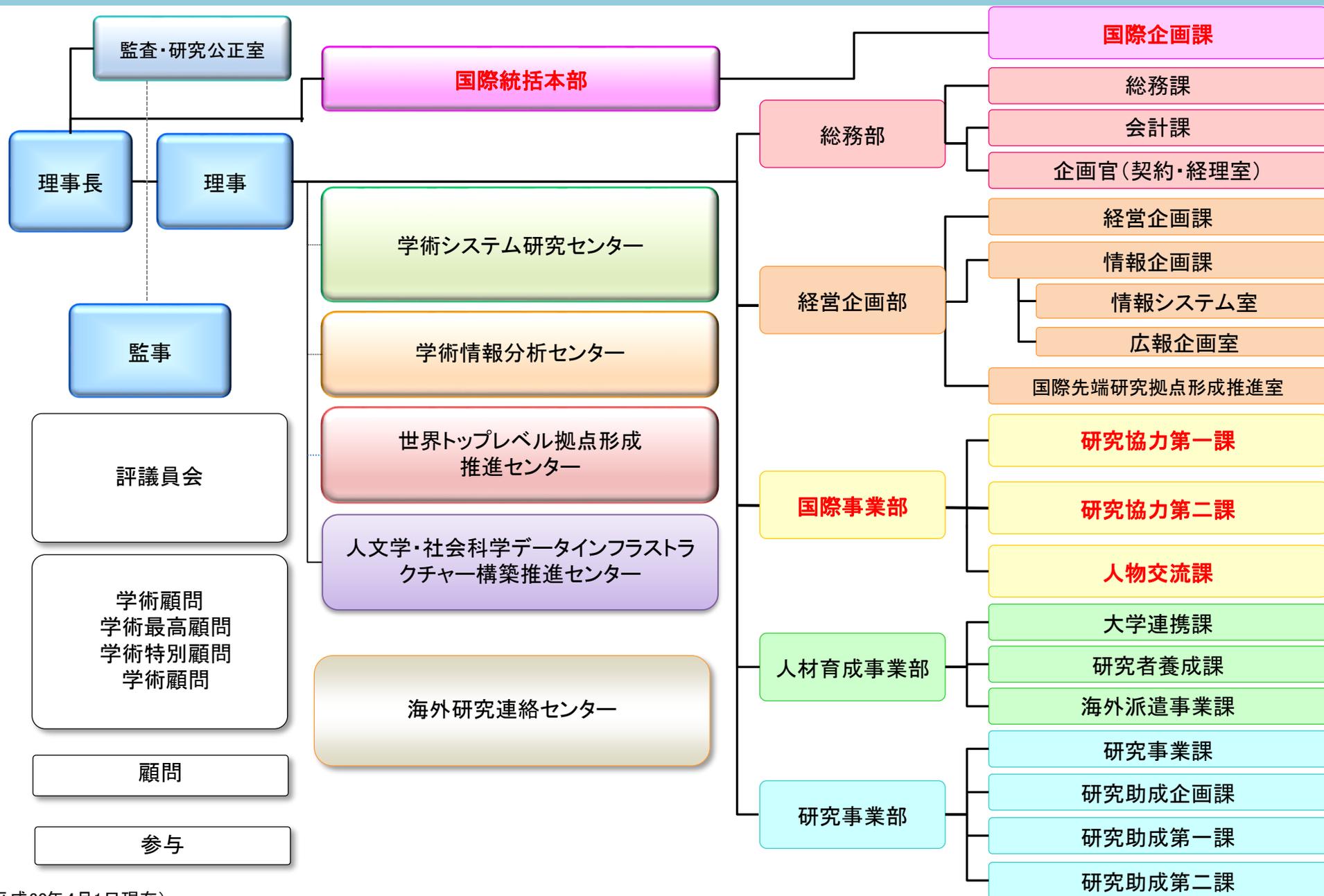
研究所

大学

大学共同利用機関

研究者

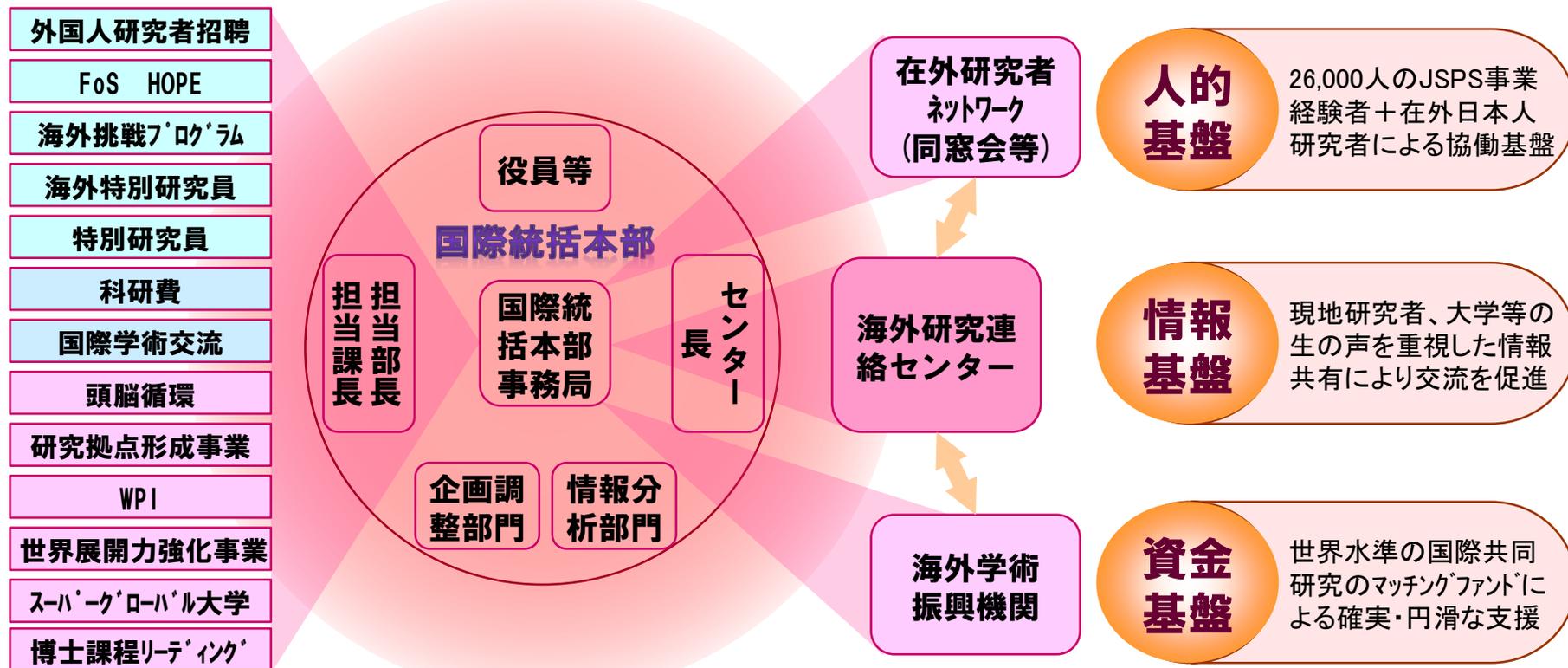
国際統括本部の設置（平成30年度～）



オールJSPSとしての戦略的な国際展開

- 学術の国際的な競争・協働が激化する中、我が国が世界の学術をリードする一角であり続けるために、人・資金・情報を通じて我が国の研究者にとっての強固な国際研究基盤を構築することが不可欠。
- 科研費を含む国際共同研究や人物交流、拠点形成事業等の広範な事業動向や海外関係機関等の動きなどを定期的に集約・共有し、戦略的・機動的な国際戦略を展開することにより、諸外国との強固かつ双方向の国際研究基盤を構築・発展させるため、「国際統括本部」を設け、本部長及び事務局組織を理事長直下に置く。

【国際統括本部の機能(イメージ)】



- ・「国際統括本部」は、役員出席の下、本部長、事務局、海外センター長(テレビ会議)、国際関連事業の担当部長・課長等で構成。
- ・本部会合は約2ヶ月毎の定期に開催し、国内外の動向を集約・共有するとともに、「大学の国際化」「国際頭脳循環」等のテーマ毎に議論。
- ・国際統括本部の事務局組織を理事長直下に置き、資金、情報、人を通じた国際連携の結節点となり、国際戦略の立案を担当。
- ・本部長は部長級より高位の職とし、JSPS全事業について国際共同研究や研究者の派遣・受入等に係る取扱の新設改廃の決裁者とする。

海外特別研究員

趣 旨

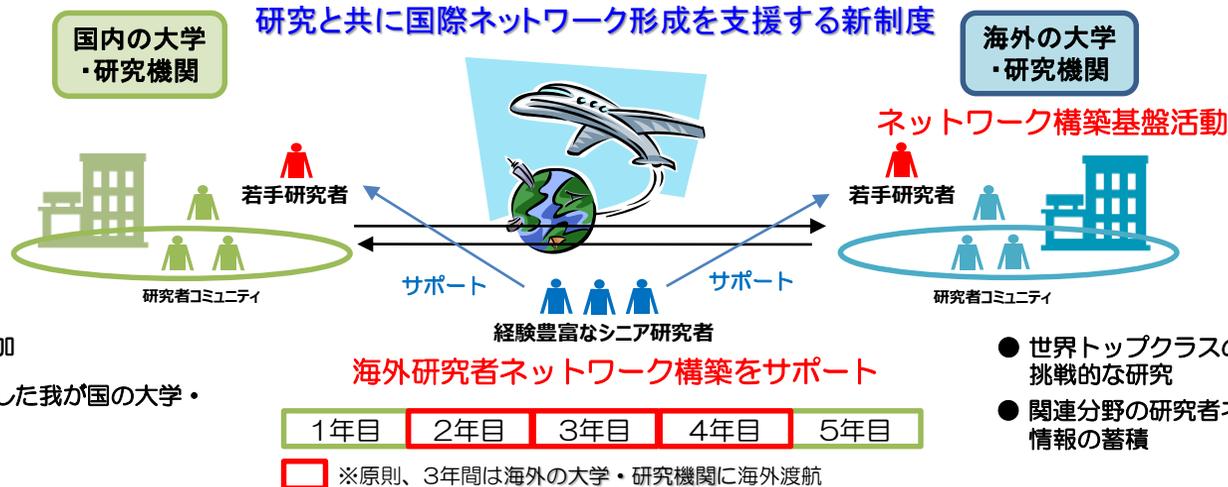
我が国における学術の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成・確保するため、優れた若手研究者が海外の特定の大学等研究機関において長期間研究に専念できるよう支援する。

事業内容

対象分野	人文学、社会科学及び自然科学の全分野
派遣先機関	海外の大学等研究機関
支援期間	2年間(平成32年(2020年)4月1日～平成33年(2021年)2月28日に派遣開始)
申請資格 (主なもの)	<ul style="list-style-type: none">・我が国の大学等学術研究機関に所属する研究者(常勤・非常勤の別や任期の有無を問わない。)、又は、当該研究者を志望する者。・採用年度の4月1日現在、博士の学位を取得後5年未満の者。・採用年度の4月1日現在、大学等研究機関の任期の定めのない常勤研究職の職歴が過去通算して5年未満の者。・日本国籍を持つ者、又は永住を許可されている外国人
支援内容・支援額	<ul style="list-style-type: none">・往復航空賃・滞在費・研究活動費(派遣国により年額約450～620万円)
採用予定数	約130名(平成32年度(2020年度)募集要項)

国際競争力強化研究員

- 我が国の研究力向上に向け、国際コミュニティの中核に位置する一流の大学・研究機関において挑戦的な研究に取り組みながら、著名な研究者等とのネットワーク形成に取り組む優れた若手研究者を支援。
- 豊富なネットワークや国際共同研究の経験を有するシニア研究者のサポート等により、国際コミュニティで存在感のある研究者としての更なる成長を促す。



【期待される効果】

- ✓ 質の高い国際共著論文が増加するとともに、我が国の研究者が引用論文をより早期に産み出し、新たな研究成果を我が国により速く移転し活用できるようになる。
- ✓ 海外研究者コミュニティにおける日本人研究者のプレゼンスが向上するとともに、形成された研究者ネットワークを活用し、我が国の大学・研究機関の研究力の強化が図られる。

【事業概要】

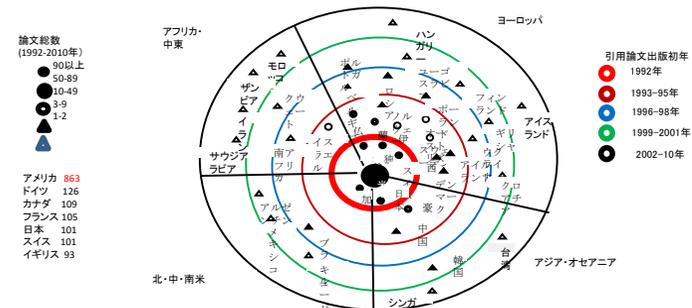
- ✓ 支援人数 10名程度
- ✓ 支援期間 5年（うち、3年間は海外研鑽）
- ✓ 支援額 5,352千円（国内）/人（2019年度分）

※別途、科学研究費助成事業（科研費）「特別研究員奨励費」を交付

- ☆ 優秀な若手研究者の海外派遣の強化。
- ☆ 最終年度は帰国し、我が国の大学・研究機関に、海外で培った国際ネットワークを還元。

<引用論文の空間的・時間的広がり>

新たな知が創出され論文が出版された時に、当該研究領域の国際的な研究者コミュニティの中心の近くに位置する研究者ほど速く当該論文を引用した論文を発表



若手研究者海外挑戦プログラム

趣 旨

海外という新たな環境へ挑戦し、3か月～1年程度海外の研究者と共同して研究に従事する機会を提供することを通じて、将来国際的な活躍が期待できる豊かな経験を持ち合わせた博士後期課程学生等の育成に寄与する。

事業内容

対象分野	人文学、社会科学及び自然科学の全分野
派遣先機関	海外の特定の優れた大学等研究機関
支援期間	3か月～1年(平成31年(2019年)8月頃～平成32年(2020年)3月31日に派遣開始)
申請資格 (①～③を全て満たすこと)	① 採用年度の4月1日現在、我が国の大学院博士後期課程に在籍する者(申請時は見込みでも可) ② 申請時かつ採用時において日本国籍を持つ者又は、日本に永住を許可されている外国人 ③ 連続して3か月以上、研究のために海外に滞在した経験がない者(申請時において既に研究のために海外に滞在中で、連続して3か月以上海外に滞在する予定の者も申請できません。)
支援内容・支援額	(1) 往復航空賃(日本国内の移動分は除く。) (2) 滞在費(派遣国によって異なる。派遣期間に依らず1件当たり100～140万円) (3) 研究活動費(派遣先機関の請求書に基づきベンチフィーを支給。上限20万円)
採用予定数	約50名(平成31年度(第2回)募集要項)

科学研究費助成事業（国際共同研究加速基金）

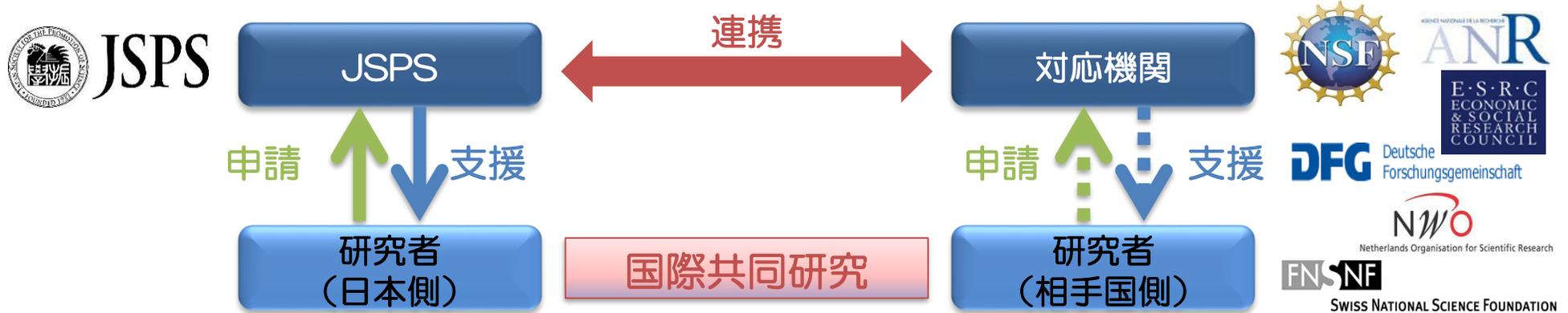
	国際共同研究強化（A）	国際共同研究強化（B） （H30～）	帰国発展研究
趣旨	<p>科研費採択者が現在実施している研究計画について、国際共同研究を行うことでその研究計画を格段に発展させ、優れた研究成果をあげることを目的とする。その結果、国際的に活躍できる、独立した研究者の養成にも資することを旨とする。</p>	<p>学術研究の発展に必要な国際共同研究を実施することにより、独創的、先駆的な研究を格段に発展させることを目的とする。その結果、我が国の研究者が国際的なネットワークの中で中核的な役割を担うことにより、国際共同研究の基盤の構築やさらなる強化に資すること、また、若手研究者の参画を要件とすることにより、早期に国際ネットワークを構築し、国際的に活躍できる研究者の養成にも資することを旨とする。</p>	<p>海外の研究機関等において、優れた研究実績を有する「独立した研究者」が、日本に帰国後すぐに研究を開始できるよう研究費を支援する。</p> <p>当該研究者が日本を主たる拠点として研究を実施することにより、当該研究者を通じた外国人研究者との連携等による日本の研究活動の活性化に資するとともに、帰国直後の研究費支援があることで若手研究者の海外挑戦の後押しにつながることも期待する。</p>
対象	<p>応募資格を満たす対象者が一人で一定期間海外の大学や研究機関において海外共同研究者と共同で行う研究計画</p>	<p>複数（3～5人程度）の日本側研究者による研究組織を構成し、海外の研究機関に所属する研究者と共同して行う国際共同研究が中核をなす研究計画</p>	<p>日本国外の研究機関に所属する日本人研究者が、帰国後に日本国内の研究機関に所属し日本を主たる拠点として一人又は複数の研究者で行う研究計画</p>
応募資格	<p>「基盤研究」「若手研究」採択者であって、36歳以上45歳以下の者 （博士号取得後5年以上経過した者は36歳未満でも可）</p>	<p>基盤研究等と同等</p>	<p>応募時点において、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日本国外の研究機関に教授、准教授又はそれに準ずる身分（ポストドクターを除く）を有し、所属している者 ②日本国外に居住する日本国籍を有する者 ③科研費応募資格を有していない者
応募総額	1,200万円以下	2,000万円以下	5,000万円以下
研究期間 （渡航期間）	～3年 （半年～1年程度）	3～6年 （柔軟な往復が可能）	3年以内
その他		<p>若手研究者の参画が要件 海外共同相手（グループ）からの同意書（Letter of Intent）の提出</p>	

国際共同研究事業

■概要

学術研究活動のグローバルな展開に対応するため、海外の学術振興機関との連携のもと、我が国の大学等の優れた研究者が海外の研究者と協力して行う国際共同研究を支援。

- －支援内容：研究経費（物品費、旅費、人件費（ポスドク・若手研究者の参加を奨励）、その他）
- －支給経費：1,000万円程度／年／件
- －採用期間：2～5年
- －採用件数：10件程度（継続課題含む）



	プログラム名	対象国	分野
二 国 間	英国との国際共同研究プログラム（JRPs-LEAD with UKRI）平成30年度より新規実施	英国	生命科学、環境科学
	ドイツとの国際共同研究プログラム（JRPs-LEAD with DFG）平成30年度より新規実施	ドイツ	地球科学
	スイスとの国際共同研究プログラム（JRPs）平成28年度～平成31年度分公募を実施	スイス	人文学、社会科学、自然科学にわたる全分野を2回に分けて公募
	国際共同研究教育パートナーシッププログラム（PIRE）平成24年度～	アメリカ	社会科学、自然科学にわたる全分野
多 国 間	欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム（ORA）平成27年度～平成30年度分公募を実施	フランス、ドイツ、イギリス、オランダ	社会科学

研究拠点形成事業

A. 先端拠点形成型

相手国側でのマッチングファンド必須

研究対象

我が国において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題

主たる相手国

我が国と国交のある2か国以上

事業概要

支援経費 1件あたり1800万円以内/年
研究期間 5年以内
採択件数 8件程度/年

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

研究対象

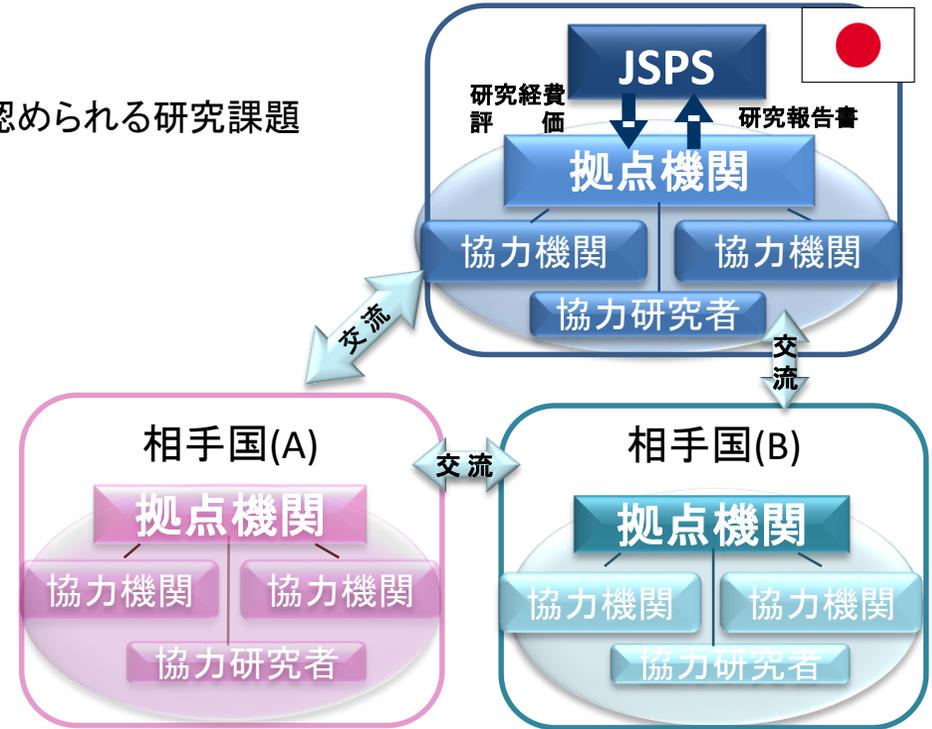
アジア・アフリカ地域において
特有、又は特に重要と認められる研究課題
であり、かつ、
我が国が重点的に研究することが有意義と
認められる研究課題

主たる相手国

我が国と国交のあるアジア・アフリカ諸国2か
国以上

事業概要

支援経費 1件あたり800万円以内/年
研究期間 3年以内
採択件数 10件程度/年



【活動形態】

共同研究: 相手国側研究者と共同で特定の研究課題を推進。

セミナー: 研究成果の発信・評価・取りまとめ及び海外の先端的
学術情報の収集の場として、シンポジウム・セミナー等
を開催。

研究者交流: 相手国側拠点機関と研究者の派遣・受入等を実施。

外国人研究者の招へい

特徴

1. 分野・国籍を問わず、研究計画の学術的価値を重視
2. キャリアステージ・招へい目的に合わせた多様なプログラム
3. 年複数回の申請機会
4. 長期滞在者に対する日本での生活支援

研究者のキャリアステージ

博士課程学生 博士号取得 博士号取得後6年 中堅 教授 ノーベル賞受賞級

外国人研究者招へい事業 (外国人特別研究員)

外国人研究者招へい事業 (外国人招へい研究者)

一般

12か月以上24か月以内
約340名

長期

2か月以上10か月以内
約60名

短期

14日以上60日以内
約170名

短期 S

7日以上30日以内
数名

サマー・ プログラム

夏季2か月
約100名

戦略的 プログラム

2か月以上
12か月以内
約50名

(推薦のみ)

欧米短期

1か月以上
12か月以内
約140名

採用数/申請数

2018

2017

2016

外特

一般

240/2,449

249/2,473

240/2,385

欧米

60/267

52/214

54/288

招へい

長期

60/259

70/234

70/235

短期

180/605

180/591

190/573

海外研究者コミュニティ（同窓会）形成支援

事業概要：JSPS事業による支援を受けた者等の組織化を図り、日本との諸外国の研究者ネットワークの形成・維持・強化を図る。

研究者コミュニティ（同窓会）設置18か国（設立年、会員数）

 ドイツ(1995年、440人)	 バングラデシュ(2009年、156人)
 フランス(2003年、631人)	 フィンランド(2009年、88人)
 英国(2004年、703人)	 タイ(2010年、85人)
 米国(2004年、2,530人)	 中国(2010年、1,331人)
 スウェーデン(2005年、159人)	 フィリピン(2013年、159人)
 インド(2006年、388人)	 ネパール(2015年、35人)
 エジプト(2008年、77人)	 デンマーク(2015年、38人)
 東アフリカ(2008年、57人)	 インドネシア(2016年、102人)
 韓国(2008年、510人)	 オーストラリア(2017年、270人)

同窓会全会員数： **7,759人** (2018年3月末現在)

海外研究者コミュニティ（同窓会）形成支援（平成15年度～）

- ◆ 年次総会・シンポジウム等の開催
 - ◆ ニュースレターの発行、HPの管理運営
 - ◆ 採用者への渡航前オリエンテーションの実施
 - ◆ 再招へい事業（※）実施のための公募・選考等
- ※JSPS海外研究連絡センターとの密接な連携により活動。センターのない国では、在外公館、コーディネータ等の協力により実施。

（※）再招へい事業（BRIDGE Fellowship Program）

平成30年度採用数：42人

JSPSの外国人研究者招へい事業等に採用されて来日し、日本での研究活動を終了した者のうち海外研究者コミュニティ（同窓会）に所属する外国人研究者に対し、再度来日する機会を提供（平成21年度～）

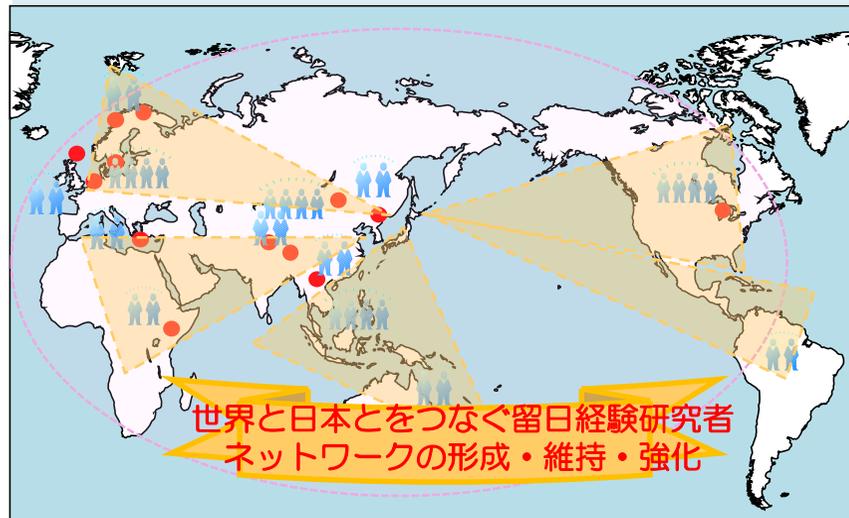
※期間：14日以上45日以下

※平成30年度支給経費：滞在費15,000円（日額）、調査研究費150,000円（上限）、往復航空券、海外旅行保険

約**26,000人**のJSPS事業経験者とのネットワークを活用

外国人特別研究員事業 **約11,000人**

外国人研究者招致事業 **約15,000人**



世界と日本をつなぐ留日経験研究者
ネットワークの形成・維持・強化

JSPS Researchers Network (JSPS-Net)

JSPS Researchers Network (JSPS-Net) は、JSPS事業経験者を中心とする研究者向けソーシャル・ネットワーク・サービスで、国境を越えて活躍する研究者等のネットワーク、研究者コミュニティの形成を支援します。同じ研究分野の研究者に加えて、異なる研究分野の利用者同士、同じ地域で活躍する研究者同士、それぞれの活動に関心を持つ研究者や研究支援に携わる方々がJSPS-Net上でコミュニティを形成し、ネットワーキングを行うことで、将来的な国際交流、国際共同研究への発展や、登録者1人1人が世界で活躍する一助となることを目指しています。また、若手や外国人研究者を受け入れている研究者と受け入れ先を探している若手研究者とをマッチングするサービスを提供するなど、新機能も追加しています。

主な機能

• 人的コネクション形成支援

- 居住地、研究分野等様々な観点からメンバー検索が可能です。
- 人と人の繋がりをサポートするメッセージ送信・友達申請が可能です。
- 研究者の研究生活における貴重な人脈形成をサポートします。

• グループ機能

- 同じ研究分野をはじめ、異なる研究分野の利用者同士、同じ地域で活躍する研究者同士、それぞれの活動に関心を持つ研究者や研究支援に携わる方々の情報共有が可能です。また、同窓会、名簿管理としても利用可能です。

• イベント・ページ作成機能

- 会員による一般イベントやグループ内イベントページの作成が可能です。
- 周知・登録・参加者の一元管理が効率的に行え、イベント前告知メールの送信も可能です。

• マイリサーチライフ

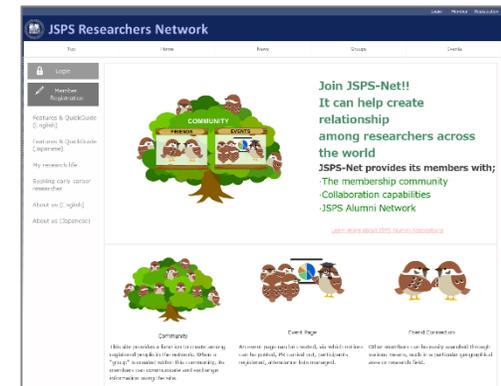
- 様々な分野で活躍する研究者自身が研究内容や研究生活を語ります。ご自身の研究分野を紹介したい方はjsps-net@jsps.go.jpまでご連絡ください。

• Seeking early-career researcher

- 受入希望研究者と若手研究者とのマッチングのためのサービスを提供し、ホストとして受け入れ可能な研究者の情報を掲載しています。ホストとして受入を希望されている研究者、特に日本での研究を希望される海外の研究者のための日本での受け入れ先ホスト情報をお持ちの方はjsps-net@jsps.go.jpまでお知らせ下さい。

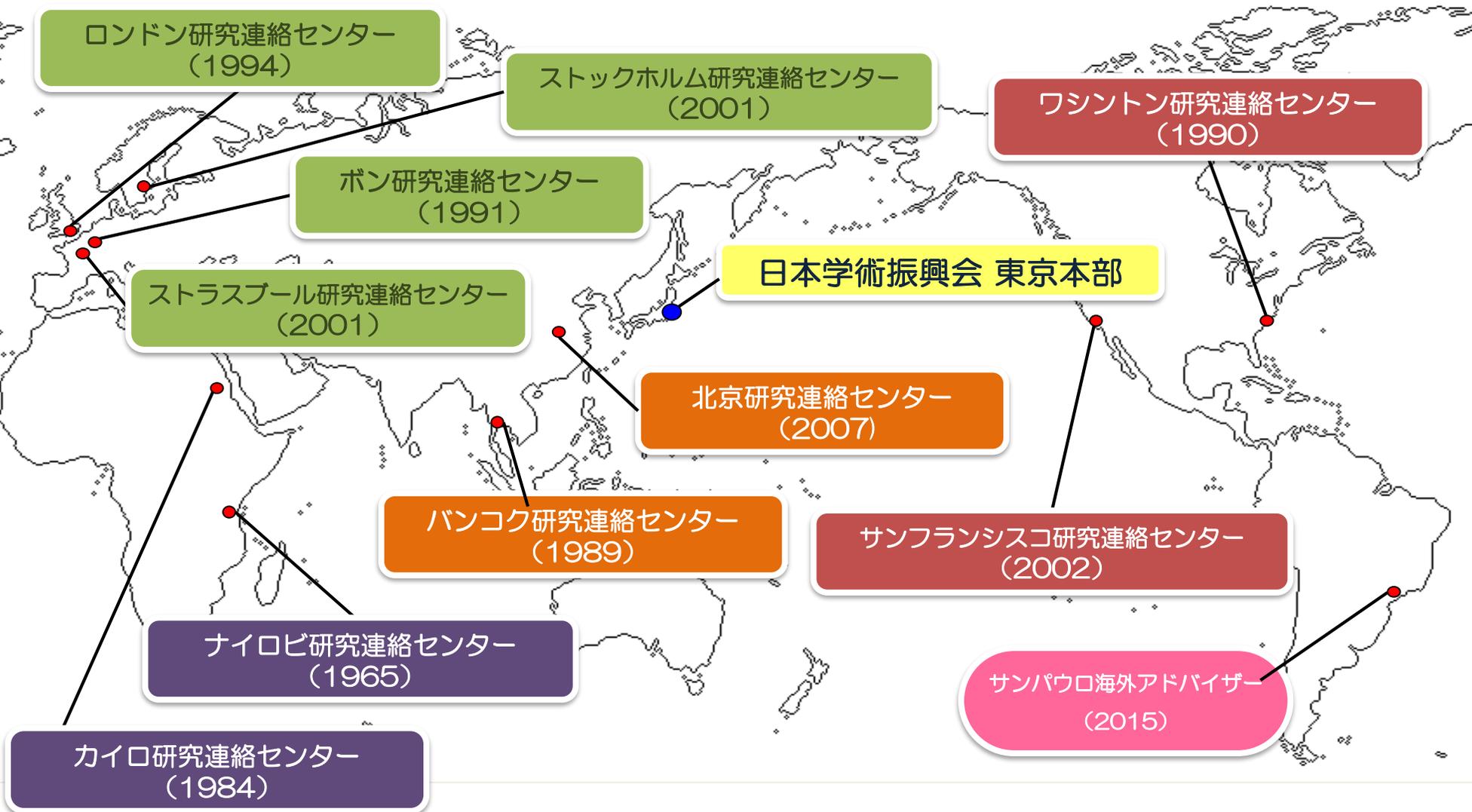


<https://www-jsps-net.jsps.go.jp/>



JSPS海外研究連絡センター

JSPSは、学術に関する国際交流における我が国と諸外国との関係強化を図るため、9か国10か所に海外研究連絡センターを設置しています。



海外研究連絡センターの主な活動内容等

ワシントン(米国)		米国の学術政策の中心地であるワシントンDC中心地に設置
サンフランシスコ(米国)		世界的な学術交流拠点であり日本の大学が多く進出しているサンフランシスコに設置
ボン(ドイツ)		ドイツ学術交流協会(DAAD)、ドイツ研究振興協会(DFG)、フンボルト財団に隣接。ドイツの学術の中心地に設置
ロンドン(英国)		英国大学協会、ロンドン大学本部などに近く、英国・アイルランド王立アジア協会と同じ建物に設置
ストックホルム(スウェーデン)		カロリンスカ医科大学(ヨーロッパを代表する医学・生物学分野の研究機関。ノーベル医学生理学賞選考機関)内に設置
ストラスブール(フランス)		日仏大学交流の促進のため仏が設置した日仏大学会館内に設置
バンコク(タイ)		東南アジアにおける学術拠点。タイ学術会議(NRCT)に近いバンコクの中心地に設置
北京(中国)		周辺に中国科学院や北京大学等の学術機関が多数立地する地区に設置
カイロ(エジプト)		中東地域におけるフィールド研究の拠点
ナイロビ(ケニア)		アフリカにおけるフィールド研究の拠点

主な活動内容

◆大学や対応機関とのシンポジウム・フォーラムの共催

◆日本の大学の組織的な海外活動展開協力・支援 ～当該国におけるネットワークを活用した交流拠点としての役割～

○センターにおける大学教職員の駐在(H30.4月現在)

- ・ロンドン(慶応大、日本スポーツ振興センター)
- ・北京(東北大、一橋大、立命館大)
- ・カイロ(上智大)

○JANET(在欧日本学術拠点ネットワーク)

ボンセンターが中心となった、在欧の日本の学術拠点の緩やかなネットワーク
ドイツや周辺地域にて、合同行事を開催

○MOU締結を目指す大学への支援や学術情報等の提供

◆招聘事業の実施・研究者コミュニティの活動支援等

◆学術情報の収集等

世界の高等教育情報・学術政策の動向の調査・収集

- ★各センターが収集した情報を、学振ウェブサイトにて随時発信、登録募集中！

「海外学術動向ポータルサイト」 → <http://www-overseas-news.jsps.go.jp/>



◆国際学術交流研修の実施

大学等事務職員の国内・海外等での実務研修

◆貴重な世界的研究フィールドで日本の学術研究を円滑に促進(中東・アフリカ)

- アフリカ地域における調査研究許可申請書等の便宜供与
- 調査データ、機材等の保管等

海外研究連絡センターの活動（例）

● シンポジウム等を通じた我が国の学術情報の発信



清華大学・CAS・JSPS
共催シンポジウム・天野教授
(2014年11月@北京)
【北京センター】



山中伸弥先生講演会・山中教授
(2017年5月@サンフランシスコ)
【サンフランシスコセンター】



Science in Japan Forum
(2018年6月@ワシントンDC)
【ワシントンセンター】

● 日本の大学の国際展開支援



JANET FORUM 2017
-Explore Research in Japan-
(2017年11月@フライブルク) 【ボンセンター】

● 地域研究を行う研究者の支援



研究会、セミナー
【左：ナイロビセンター、右：カイロセンター】

● 海外における本会事業の実施、 広報活動



事業説明会
(2017年5月@パリ)
【ストラスブールセンター】



Pre-Departure Seminar (2017年4月@ロンドン)
【ロンドンセンター】

● 現地研究者のネットワーク構築



在瑞日本人研究者の会
(2018年4月@ストックホルム)
【ストックホルムセンター】



在英日本人研究者データベース
【ロンドンセンター】



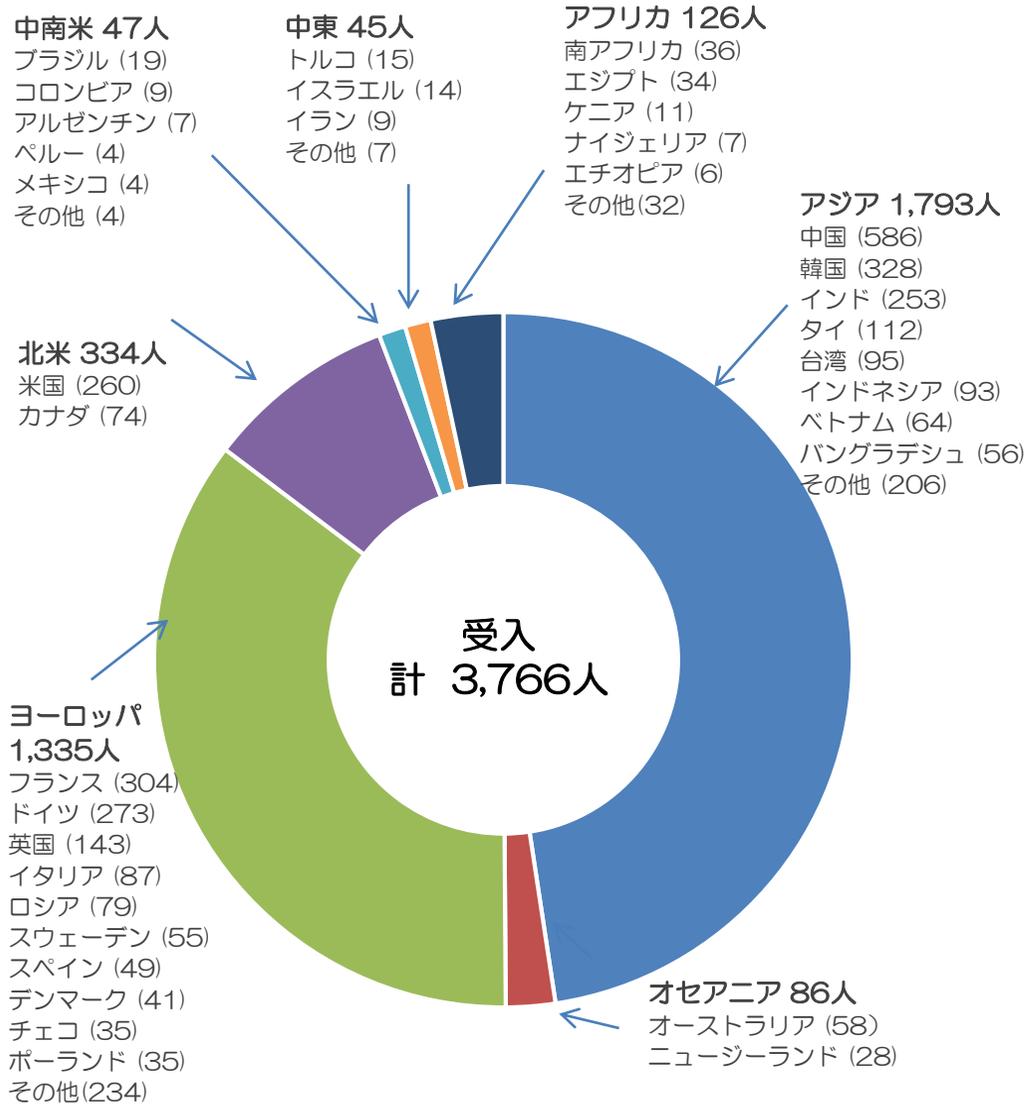
JSPSドイツ語圏同窓会
との共催シンポジウム
(2018年4月@フランクフルト)
【ボンセンター】

● 海外の学術動向に関する 情報収集

- ✓ 諸外国の学術動向の情報を収集
 - ✓ 各センターの所在国、周辺地域の学術の実情や動向をまとめたレポートを作成 (2014年度)
- 「JSPS海外学術動向ポータルサイト」にて公開中

JSPS国際事業の研究者交流数（H29実績）

◆平成29年度 外国人研究者の受入



◆平成29年度 日本人研究者の海外派遣

